

スポーツボランティア
プログラム
東京都障害者スポーツ大会
「車椅子バスケットボール」
2017/1/29



1月29日(日)、武蔵野市総合体育館で開催された東京都障害者スポーツ大会「車椅子バスケットボール」の競技会に、本学の学生5人が運営ボランティアとして参加しました。

障がい者スポーツの花形と言われる車椅子バスケットボール(以下、車椅子バスケ)。激しくぶつかり合う車椅子の音、ものすごいスピードで駆け抜けていく選手たちの姿に、学生たちも大興奮で運営サポートを行いました。



車椅子バスケのルールは、一般のバスケットボールとほぼ同じで、1チーム5人の選手が一般の競技と同じ高さ(3.05m)のゴールにボールを投げ入れて、得点を競います。一般のバスケットボールと大きく異なる点は、重度の障がいをもつ選手が競技への参加を妨げられないよう選手一人ひとりが障がいの程度により、1.0点から0.5点きざみで4.5点まで、持ち点でクラス分けされており、常にコートに出ている5人の選手の持ち点の合計が14.0点以内でなくてはならないことです。転倒も頻繁に起こり、転倒した際は自力で起き上がらないといけないため、素早くうまく起き上がる姿に鍛え上げられた筋力のすごさを感じました。車椅子がぶつかり合う金属音、タイヤと床がこすれる音、焦げたような匂い、片手でキャッチし片手でシュート、片輪を浮かす華麗なプレイなど迫力のある試合が繰り広げられ、通常のバスケットボールとは違った面白さもありました。

学生たちは、駐車場での来場した選手の誘導、荷物の運搬補助、開会式・閉会式でのプラカード持ちや介添え、試合中にはモップ(床のモップがけ)などを行いました。荷物の運搬をサポートした際には、普段特に意識しないような小さな段差でも、車椅子の人にとっては行きにくく回避したい場所であるということに気づいたようです。

参加した学生からは、「車椅子を自由自在に操り、迫力のあるプレイスタイルを間近で見ることができ、その迫力に感動した」「障がいの重さによって、プレイにも特徴があった。身体の動く範囲などにより、プレイスタイルの違いはあるかもしれないが、全員が何かしらの役割を果たしていることが分かった」といった感想が聞かれました。

また、「これまでの活動を通して、障がい者スポーツに関わる方々が、それを社会にもっと広めていこうと、様々な工夫や努力をされていることを知ることができた」という声も聞かれました。今年度の障がい者スポーツの活動は今回が最後になりますが、今後多くの大学生に、障がい者スポーツの魅力や“する”“観る”“支える”という様々な関わり方ができることを発信していきたいと思えます。